



布施だより

《 学校グランドデザイン 》

～ 「聴く・チャイムスタート」「あいさつ」「合唱」 ～

平成26年度学校教育の全体像である「西中学校グランドデザイン」をお届けします。(4面を参照に)。指導の重点は「聴く・チャイムスタート」「あいさつ」「合唱」の3点です。

基礎・基本の学力の確かな定着を目指す中で、「耳を傾けて聴くこと」の価値を追究したいと考えています。そして授業づくりに欠かせない姿勢の中で、チャイムと同時に授業がスタートできる環境作りを生徒と一緒に求めていきたいです。この「聴く・チャイムスタート」を日々の授業改善と共に位置づけていこうと考えています。また相手意識のある「あいさつ」を、尊重し合える関係作りの基本に据えていきます。6・7月の凡事徹底は「あいさつ」です。学校内外のあいさつが豊かに交わし合えるよう生徒と一緒に考え、行動していこうと考えています。毎月11日の「篠ノ井あいさつ運動」とも連携しながらの活動になります。最後に「合唱」活動。西中の合唱が生徒諸君にとって、そして地域の学校としての「誇り」にまで高めていけるよう、唱っていこうと願っています。

《 若々しい感性が触れ合うとき ～ 教育実習が始まりました ～ 》

6月3日(月)より、西中卒業生6名の皆さんによる教育実習が始まりました。若々しい感性が触れ合う2～3週間になります。

実習1週目は、専門教科のみならず、他教科の参観を通して、授業の流れや学習指導案の記述を学んでいます。そして2週目に入る来週からは、実際の授業に臨んでいきます。黒板の書き方、学習問題のより良い設定の仕方など、生徒たちとのやり取りを通しながら学ぶこととなります。笑顔の素敵な実習生6人の先生方が、自分自身の中学校時代を思い返しながら、それぞれの持ち味を発揮してくれています。よろしくお願いたします。



実習生	教科	学級	実習予定期間
石井 良 先生	保健体育	3年1組	6月2日～6月20日
石川 愛恵 先生	英語	3年5組	6月2日～6月20日
内堀 実咲 先生	社会	3年2組	6月2日～6月20日
岡野 正和 先生	社会	1年7組	6月2日～6月13日
山本 佳弘 先生	保健体育	1年6組	6月2日～6月20日
渡邊 美咲 先生	英語	1年1組	6月2日～6月20日

《 決意を新たにする時 ～ リポート ^{かつや} 勝冶さんとの出会いから ～ 》

前号でもお伝えした23日(金)のボランティア講演会を、企画してくださった飯島春光先生による後日談のリポートです。

「飯島先生、私涙が出ちゃいます。この音も録画して帰りたいです。もう4年も、このカエルの鳴き声を聞いていないんです」

大震災と津波に加え、原発事故という今までにない被害を受け、今もなお13万人以上の方が避難生活を送っている福島県。今年のボランティア講演会は、福島の人々や子どもたちがどんな事を考え、また悩みながら、現実にその地で生活しているのかを直にお聞きしたいという趣旨で、福島県南相馬市の小学校学習支援員・勝冶美喜子さんのお話を聞きました。

5月24日(土)、西中での講演の翌日の朝。田植え真っ盛りの姨捨の棚田にお連れしました。すばらしい棚田の風景と、ひっきりなしに聞こえるカエルたちの鳴き声に、冒頭の言葉が発せられたのです。改めて原発事故の影響の重さを思いました。南相馬市原町区では、2011年の春耕から4年目の今年まで、まだ田植えが行われていません。

姨捨の棚田は16世紀以来、先祖が営々と耕作してきた汗の結晶です。一方、同じように江戸時代から干潟を干拓して広げてきた南相馬市小高区の広大な水田は、津波で一瞬にして海に戻ってしまい、しかも放射能汚染により、その復旧もできていません。一昨年9月にこの地を訪れた私は、声も出ず、息をのんでこの光景を見ました。

23日の講演の後の懇談の席で、「今どうですか?」と問うたA君に、先生は一瞬言葉を選んだ後、次のように語りました。

「(有機農業をやりたくて福島にもどって)7年かかってやっとここまで来たのに、その農業ができなくなって、私は自殺しようかとさえ考えました。でも1年後、小学校支援員の仕事に就き、子どもたちから元気ももらっています。」

定年より前に教師をやめて、農業をやりたくて福島に戻った先生が、その農業ができなくなった落胆はいかばかりだったのでしょうか。もちろんそれは今も続いている



< 現地訪問の様子 >

わけです。

講演と座談会でのお話の中から、いくつか拾ってみます。

- ・中学校教員を退職して東京から引っ越し、古民家を借りて住み、安心して食べられる野菜作りをと、有機農業を始めた。東京の知人へ野菜ボックスを発送し、さらに農家民宿、農家レストランも始める段取りをしていた。
- ・地震のあった日、アスパラガスの出荷を目前に控え、水やり作業を終え、家に帰って車を降りた途端、地震に襲われた。次々に襲ってくる余震におののく。
- ・「20キロから30キロ圏の住民は自主避難せよ」の指示で山形県長井市へ。お客さんを頼って避難。その後は温泉宿を借りて一か月間の避難生活。長井市のトマト農家のもとでしばらく働き、8月から10月、東京の娘のもとへ避難。
- ・農業もできなくなって、12月ごろ、「死んでもいいな」とさえ思った。しかし死ねなかった。「このままいつまで誰かに助けられて生きていくのだろう」「農業をやりたくて来たのに、この私の畑はどうなってしまおうのだろう」といつも胸がムカムカしている。
- ・学習支援員の仕事がみつきり、2012年4月から原町第三小学校に勤務。子どもたちから元気をもらってきた。しかし子どもたちも様々な困難をかかえながら生きている。例えば、津波で母親を突然亡くした少女は、精神的に非常に不安定になっている。

講演の最後に、明治時代足尾銅山の鉍毒水問題に生涯をかけた田中正造のことばを紹介していました。～「民を殺すは 国家を殺すなり 真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を荒らさず 人を殺さぬべし」～

勝治さんが棚田とカエルの鳴き声に涙した。それは、美しいだけでなく、ここまでにして耕地を広げてきた先祖のご苦勞に涙したのです。それが一瞬にして無になってしまう国の豊かさとは何か。今、日本人皆が考えていかなければならない大事な課題でしょう。フクシマを忘れず、考えつづけ、生活を見直しながら、一緒に行動していかなければならないと決意を新たにしました。



出会いが、動き出す一步の後押しにつながります。

《 西中ホームページリニューアル！ 》

「西中ホームページ」が6月2日、全面リニューアルしました。トップページには四季折々の生徒の表情が掲載され、トップのタグには「学校長より」「布施だより」「西中ららら」「記念事業特集」などを読むことができます。また「学年だより」「学校からのお知らせ」「更新情報New!」では日々の活動の様子やお知らせを随時更新していき、新鮮な情報をお届けしていきます。是非、ご覧いただき、感想等お寄せいただければ幸いです。よろしくお願いたします。



平成 26 年度篠ノ井西中学校グランドデザイン

長野市教育大綱

明日を拓く

深く豊かな人間性の実現

平成26年度学校重点取組事項

- ◇キャリア教育の推進
- ◇活用する力の育成
- ◇地域・社会連携の強化

学校教育目標

人権を尊び 自らが高いめあてを持って
たくましく生きる生徒の育成をめざす

具体目標

- 一 礼儀正しく、人の気持ちを大切にする生徒（友愛）
- 二 自ら学び、すすんで発表する生徒（自主・自立）
- 三 ねばり強く、集中してやりぬく生徒（自律、誠実）

平成26年度学校運営の3本柱

柱1

基礎・基本の学力の確かな定着

- ◇基本的学習習慣の確立
 - ・聴くこと、書くこと
- ◇各教科会の学力向上プランの立案と実践
- ◇日々の授業改善（教科指導研究）
 - ・定着場面の工夫
- ◇効果的な家庭学習の工夫と指導
- ◇小中合同学力向上委員会の取組

柱2

支え合い高め合う集団づくり

- ◇人権教育の日常化
- ◇成就感、達成感の共有を目指した各種行事や諸活動（体育集会、合唱づくり、銀河祭等）
- ◇生徒会スローガン「怒」を目指した生徒会活動
- ◇Q-Uの活用：学級内の良好な人間関係づくり

柱3

不登校傾向生徒への支援の充実と生徒指導の組織的な対応

- ◇校内中間教室の支援・指導体制の充実
- ◇予防的対応と早期対応
- ◇チーム支援、個に応じた支援、家庭や外部機関との連携
- ◇迅速な情報共有、指導方針の共通理解、役割分担

平成 26 年度指導の重点

重点1 「聴く」・「チャイムスタート」（凡事徹底）

学校運営の柱1・2・・・「学ぶ力の育成」「自律」「他者の尊重」「信頼づくり」

重点2 「あいさつ」

学校運営の柱2・3・・・「相手意識」「他者の尊重」「コミュニケーション力の育成」

重点3 「合唱」

学校運営の柱2・3・・・「成就感・達成感の共有」「誇りづくり」「信頼づくり」

全校研究テーマ 基礎的・基本的な知識・技能の定着と確かな学力の向上に向けての指導のあり方

自主自立の精神を培う生徒会活動

平成 26 年度生徒会スローガン「怒の心 ～つなげよう思いやりの輪 広げよう無限の可能性」

キャリア教育の推進 生徒の社会的・職業的自立に向けた、全領域を通じた体系的なキャリア教育の推進

西中の礎

教職員の資質向上 ～学び続ける教職員～

- ◇日々の授業改善につながる授業研究会
- ◇PDCA サイクルによる指導改善
- ◇ICT活用力の向上

開かれた学校

- ◇学校自己評価
- ◇学校評議員会
- ◇参観日週間
- ◇お便り、H.P.による情報発信
- ◇地域との連携（地域連携教育懇談会、地区懇談会）

安心で信頼される学校

- ◇迅速で誠意ある対応と、共通理解に立った組織的対応
- ◇防災教育の充実
- ◇定期的な交通安全指導
- ◇定期的な安全点検と迅速な修繕
- ◇警察機関との連携

